
編集後記

「国立女性教育会館研究ジャーナル」第10号をお届けします。「刊行にあたって」でもふれたように、今号を機に表題を変更しました。その理由は、「紀要」は特定の研究機関の内部的な発行物というイメージがあるために、幅広く一般から論文や実践事例研究などを公募している本誌には、よりふさわしい名称が必要であること、また、近年の学術的な業績評価では、「紀要」は査読なしの雑誌と受け取られる傾向にあるため、本誌が厳正な査読付きの雑誌であることをより表示できる名称がよいのではないかと、というところにあります。今後ともこの雑誌の質の高さを維持していくために、当委員会は、投稿原稿を、丁寧にかつ公正に査読して行きたいと思っています。

ジェンダーの視点による学術へのアプローチは、人文・社会科学だけでなく、広く理学・工学・農学・医学などの分野においても、めざましい成果を上げています。本号の特集テーマとした「災害復興」の領域においても、これまで難民問題や平和構築に大きな貢献をしてきたジェンダー学の有用性が、明確に証明されているのではないのでしょうか。

本号から、投稿論文に関してはすべて「自由論題」の募集としました。その結果、計17本（論文8本、実践事例研究6本、研究ノート3本）の投稿をいただき、査読・審査した結果、4本（論文1本、実践事例研究2本、研究ノート1本）を採用して、掲載しました。当ジャーナルの特色は、理論的な「研究」と具体的な「実践」との融合がはかられるところにもあると思います。その意味では、とりわけ実践事例研究の投稿が増えたことは喜ばしいかぎりです、これも毎年実施している「論文の書き方講座」の成果ではないかと、密かに自負するところです。

本号には、他にも、書評、本の紹介、会館の職員による実践事例研究など、盛りだくさんの内容が掲載されています。お忙しい中、執筆して下さいました方々、また、専門家として常に相談にのり、査読に関与して下さいました協力委員の方々に、心よりお礼を申し上げます。

2006年4月をもって当委員会のメンバー交代がありました。前任の江原由美子委員長の下で育まれた成果を大切にしながら、私も、頼りになる編集委員の方々や常に適切な目配りをして下さる職員の方々とともに、この職責を精一杯、果たしていきたいと思っております。

研究ジャーナル編集委員長 浅倉むつ子

国立女性教育会館研究ジャーナル 第10号

2006年8月30日 発行

編集・発行

独立行政法人 国立女性教育会館

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町大字菅谷728番地
TEL 0493-62-6711 FAX 0493-62-9034

制作・印刷

よしみ工産株式会社

〒804-0094 北九州市戸畑区天神1丁目13番5号
TEL 093-882-1661 FAX 093-881-8467